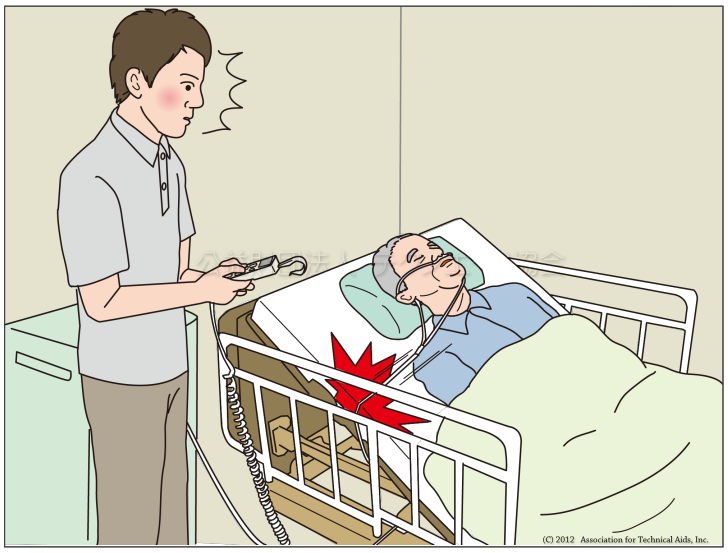
Case：187

ベッドの背上げ時、酸素チューブが引っかかってしまい抜けそうになる

場面の説明

酸素チューブがベッドに引っかかっていることに気づかず操作したため、酸素チューブが抜けそうになった



利用シーン	起居・就寝 リモコン操作
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	特殊寝台
分類コード (CCTA95)	181209 (電動ギャッチベッド)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

利用者の心身の状況によっては、呼吸器や酸素吸入、導尿など様々なチューブが、挟まれたり、引っかかったりする危険を持っています。介護用のベッドでは様々な動きがあることで、その危険が一層高まっていますので、チューブの取り回しを検討し、必要に応じて固定するなどの対策をあらかじめ講じておく必要があります。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：酸素チューブが引っかかっていることを見落とした
管理：酸素チューブの配線が悪かった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.